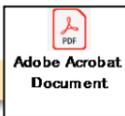


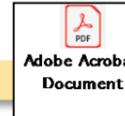
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
単元名	かけ算 9 → 8	わり算 9 → 8	暗算 3 → 2	大きい数のしくみ 10 → 10	大きい数のわり算、分数とわり算 4 → 4	小数 12 → 12	分数 10 → 10	□を使った式 4 → 4		ぼうグラフと表 10 → 10
	時こくと時間のもとめ方 4 → 3	たし算とひき算の筆算 8 → 6	あまりのあるわり算 7 → 6	かけ算の筆算(1) 11 → 10	どんな計算になるのかな? 1 → 1	重さのたんいとはかり方 9 → 9		かけ算の筆算(2) 10 → 9		そろばん 2 → 2
		考える力をのばそう 1 → 1			円と球 8 → 8				倍の計算 3 → 3	考える力をのばそう 1 → 1
		長いものの長さのはかり方と表し方 7 → 5							三角形と角 8 → 8	3年のふくしゅう 3 → 0
時数減の方向性	【かけ算】 ・家庭学習と連携し、学習内容の定着を確認するための時数を削減 【時こくと時間のもとめ方】 ・家庭学習と連携し、学習内容の定着を確認するための時数を削減	【わり算】 ・家庭学習と連携し、学習内容の定着を確認するための時数を削減 【たし算とひき算の筆算】 ・家庭学習と連携し、計算技能の習得にかけている分、時数を削減 【長いものの長さのはかり方と表し方】	【暗算】 ・家庭学習と連携し、学習内容の定着を確認するための時数を削減 【あまりのあるわり算】 ・家庭学習と連携し、学習内容の定着を確認するための時数を削減	【かけ算の筆算(1)】 ・家庭学習と連携し、学習内容の定着を確認するための時数を削減				【かけ算の筆算(2)】 ・家庭学習と連携し、学習内容の定着を確認するための時数を削減		



カリマネ要領へGO!



評価規準へGO!



単元情報	かけ算		わり算		大きい数のしくみ		小数		分数		□を使った式		三角形と角		ぼうグラフと表	
	時こくと時間のもとめ方	たし算とひき算の筆算	あまりのあるわり算	かけ算の筆算(1)	円と球	重さのたんいとはかり方	かけ算の筆算(2)	そろばん								
ゴールの姿	・九九をつくりなおしたり、10のかけ算を計算したりするためには、かけ算のきまりを使えばいいね。 ・たし算のきまりとかけ算のきまりが似ているところがあったね。もっと大きい数のかけ算も工夫して計算できそうだね。	・いくつ分と一つ分を求める場面は違うけど、どちらもまとめてとるところは同じだから、わり算で求められるんだね。 ・九九を使うとわり算の答えを求めることができるね。どんな数の時でもわり算はできるのかな。	・長いものの長さも、kmを使って基の大きさのいくつ分で表すのは、これまでの長さやかさの表し方と同じだね。 ・長さも長さの単位だけではなくて、歩くとか分かかる等の、時間を使っても表せたから、何かを表す単位はいろいろあるのかな。	・数が大きくなって、どの位でも、数が10こ集まると位が1つ上がる仕組みは同じだったね。 ・一、十、百、千の繰り返しになっているのは、もっと大きな数でも同じなのかもしれない。	・位ごとに分けて計算すると、数が大きくなってこれまでと同じように計算できるね。 ・わり算と分数は同じ(等分する)という意味でつながったね。 ・分数はもとにする大きさが大切だったことが分かったよ。もとにする大きさが同じなら、たし算やひき算はできるのかな。	・同じ位の数が10こ集まると1つ上の位にうつるのは、整数のときと同じだね。 ・もとにする数に注目して考えると、計算の仕方も整数と小数では同じと考えられるね。 ・もっと小さい数も考えてみたいね。	・長さやかさも、1mや1Lをもとの大きさにして、その何等分した大きさを何個分と考えることで分数を使って大きさを表せたね。 ・等分した1つ分した数をもとにすると、これまでの整数や小数と同じようにたし算やひき算ができるね。	・場面に注目して□を使って、お話し通りに式に表すと、注目した場面が分かりやすくなって便利だね。 ・式は答えを求めるためのものではないことが分かったよ。 ・分からない数を□で表せば、いろいろな場面でも式が立てられそう。	・辺の長さに注目して、長さが等しい辺の数がいくつかを考えると、二等辺三角形や正三角形を見つけることができたね。 ・三角形をかくときも辺の長さや円の半径の長さの関係をうまく簡単にかけることに気付いたよ。	・棒グラフは、多い、少ないをひと目で分かりやすいね。 ・出来事の特徴に注目すると、棒グラフに表すとよいものが何か見つけられるようになったよ。 ・1めもりの大きさを決めることが大事だから、何を表したいのか考えるようになったよ。						
備考	・九九を構成した時の経験を大切に学習を進めたい。 構成した際に無自覚的に使っていた、乗法の交換法則や結合法則、分配法則を価値付けていきたい。	・かけ算の反対がわり算と言ってしまうだけでなく、場面の異なるわり算を操作を通して、統合していくことを大切にしたい。 ・わり算は割合につながることを意識しながら指導したい。	・長さの測り方に終始するのではなく、適切な単位で表したり、およその検討をつけて、適切な計器を選択して測定する経験がもてるようにすることを重視したい。	・百や千、万を単位として数を捉えたり、数の大きさを比べたり、計算の仕方を変えたりすることは、数の範囲が大きくなっても、同じであることに気付けるようにしたい。 ・数が大きくなるとその大きさを実感的につかみにくいため、単位を変えながら数の大きさを捉えたい。	・単位の考えによる計算の仕方は乗法のときと同じであることに気付かせたい。 ・分数の大小を比較するときには、1の大きさを決めることが必要であることに気付けるようにしたい。	・端数部分を表すのに分数を用いる際や、小数や分数の計算の仕方を考える際に生かされる考えであることを意識したい。 ・基にする量の何個分と考えると整数と同じ見方というところに気付けるようにしたい。	・単位分数の個数に着目すると、整数の場合と同じように計算できることに気付くことを重視したい。分数の意味については、観点によって様々な捉え方ができることに気付きたい。	・未知の数量を□を用いて立式したり、図に表したりして考察する場面を設定したい。そのことにより数量の関係が見え、加法と減法や乗法と除法の相互関係を説明する学習を展開したい。	・辺の長さや角の大きさなどの図形の構成要素に着目することで、他の図形の見方が変わるよう、合同な三角形を数え数えする活動も大切にしてほしい。	・数量の大小や差を読むことに加えて、最大値や最小値、項目間の関係、全体の特徴など様々な読み取り方ができること。目的によって目盛りのつけ方を変えることを一連の問題解決内で行いたい。						
ゴールの姿	・ちょうど時刻をもとにして考えると、時刻を求めやすいね。 ・長さやかさのときと同じように、時間も計算することができるんだね。時間も単位を使い分けると分かりやすいね。	・位のまとまりで数を見ると、これまでに学習したたし算やひき算の計算の仕方と同じ考え方で計算できるね。 ・位のまとまりごとに考えると、大きな数のかけ算やわり算も計算できるのかな。	・わり算の仕方を考えるとき、わる数とあまりの大きさに注目すると計算が正しいか分かるね。 ・計算した答えがそのままでは、問題の解決にならないことがあったね。あまりをどう考えるかが大切だと分かったよ。	・たし算やひき算のときと同じで、位ごとに計算する考え方をすると、大きい数のかけ算も計算することができたね。 ・かけ算のきまりを生かして、計算の仕方を工夫すると、かける数が大きくなって計算できそうだね。	・コンパスは等しい長さを測り取ることができる道具だから、中心から等しい距離になるように円をかくことができたね。 ・円や球についても、三角形などのように説明することができるようになったね。	・長さやかさと同じように、もとにする大きさに注目して、重さもgやkg、tなどの単位を使って表せるようになったね。 ・ミリやキロは1000倍の関係で使われているのは、他の単位でも同じ関係になっているんだね。他にもきまりがあるのかな。	・数のしくみに注目すると、かける数が1けたから2けたになっても、同じ考えで筆算ができるね。 ・たし算やひき算、かけ算でも筆算で計算できたから、わり算も筆算で計算できるのかな。	・そろばんの数の表し方は、これまでに位ごとに考えてきたことと同じだと分かったよ。 ・小数や大きい整数でも位取りをして考えることができるから、もっと大きいときも小さいときも同じように考えられそうだね。								
備考	・時刻や時間を求めることは、日常生活における時間の経過を捉えて考えることが大切であるので、日常生活で必要となる場面を多く設定したい。	・計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだす活動を重視したい。 ・計算を工夫することや計算を確かめることを自ら行える態度の育成を目指したい。	・余りの計算ができることに終始せず、あまりの処理について、日常生活での活用場面を多く設定し、考えるようにしたい。状況や場面によって処理の仕方が異なることに気付かせたい。	・乗法に関して成り立つ性質を用いて、計算の仕方を考えられることに価値付けしたい。 ・計算の技能習得に重きを置くのではなく、見積もりができることや九九を基にして考えることを大切にしたい。	・コンパスを円をかく道具として捉えるのではなく、3年の図形で大切にしたい「等長」を意識できるようにしたい。 ・コマづくりなどの活動を取り入れて円の性質に気付けるようにしたい。	・単位について、覚えるのではなく関係を統合的に考察する場面を設定したい。その経験を新しい単位に出合ったときも類推して、量の大きさを考えることができることにつなげたい。	・計算の工夫を通して、問題解決の際に、よりよいものを求め続けようとして、多面的に考えようとしてきたことが、5年の小数を含んだ計算にもつながることを意識したい。	・そろばんでの計算の技能を習得を目指すのではなく、そろばんの仕組みが、位取り記数法に沿ったものであることに気付けるように、2つを対比する場面を設定したい。								